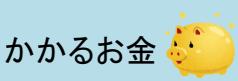


けっしょう つく
結晶を作ってみよう



かかる時間

実験: 1~2週間
まとめ: 1時間



かかるお金

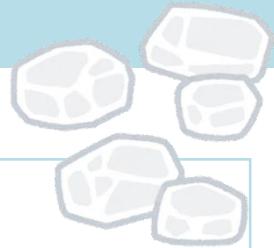
300円~

※写真やプリントのお
金は含まれません

けっしょう

つく

結晶を作ってみよう



【やってみよう編】

用意するもの

どうめいなカップ、たこ糸、湯、食塩、ミョウバン

やってみよう！

1 湯を沸かし、カップに半分ぐらい入れる。

ちゅううい
やけどに注意



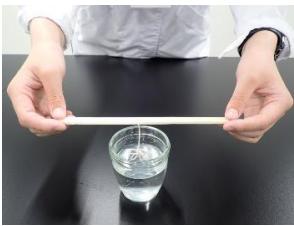
2 食塩またはミョウバンを湯に溶かす。



3 食塩またはミョウバンが溶けきれなくなるまで溶かす。



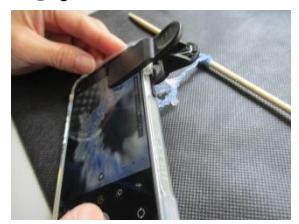
4 ひもを好きな形に成形し、液体の中に垂らす。



5 1~2週間放置する。



6 できた結晶をマイクロレンズを使って観察する。



考えてみよう

食塩やミョウバンはどれぐらい溶けたか記録してみよう。
砂糖やうま味調味料など、他のものでも結晶が作れるかやってみよう。

けっしょう

つく

結晶を作ってみよう



【解説編】物質によって溶ける量が違ったのはなんでだろう

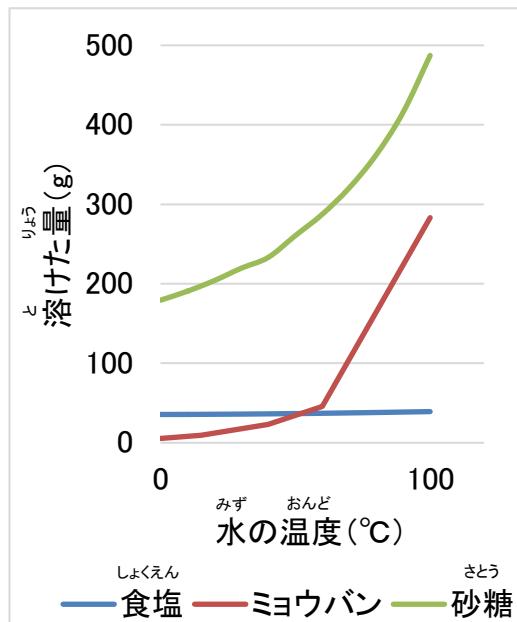
なぜ結晶ができたのだろう

どんな形の結晶ができたかな

物質によって溶ける量が違ったのはなんでだろう？

ものの溶ける量は物質と温度によってかわります。100gの水に溶ける量と温度の関係を表した右のようなグラフを「溶解度曲線」といいます。

砂糖やミョウバンは温度が上昇すると溶ける量が多くなりますが、食塩は温度が変化しても溶ける量はあまり変化しないことがわかっています。

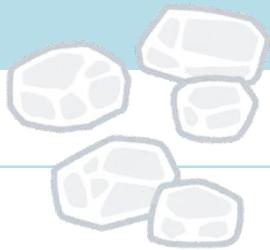


なぜ結晶ができたのだろう？

水に食塩やミョウバンを溶かせるだけ溶かした液を「飽和水溶液」といいます。これを放置しておくと、水分が蒸発し、溶けきれなくなった食塩やミョウバンが析出します。放置する場所の温度や風通しなどで水分が蒸発する量は異なりますが、ゆっくり蒸発させることでより大きな結晶ができます。



けっしょく つく 結晶を作ってみよう



かいせつへん 【解説編】

かたち けっしょく
どんな形の結晶ができたかな？

けんきゅうしょ じっさい けっしょく
研究所でも、実際に結晶をつくるマイクロレンズで観察、撮影しました。

しょくえん
食塩



み ちょうみりょう
うま味調味料

けんきゅうしょ けんさ ないよう しょうかい 研究所で検査している内容の紹介

にほん おんせん おんせん ねん おんせんせいぶん
日本にはたくさんの温泉があります。温泉は、10年ごとに温泉成分
ぶんせき う ひつよう ほうりつ さだ
分析を受ける必要があると法律で定められています。

けんきゅうしょ おんせんせいぶんぶんせき おこな なか おんせんちゅう
研究所では、温泉成分分析を行っています。その中に、温泉中の
じょうはつざんりゆうぶつ けんさ おんせん かねつ につ すいぶん じょう
蒸発残留物の検査があります。温泉を加熱して煮詰め、水分を蒸
はつ のこ こけいぶつ しつりょう させたときに残った固体物の質量をはかります。

